

ドクターNAKAMURAの 健康道場



Vol.45 厄介な糖尿病 の合併症

38歳。近藤姫。乳腺炎を乳癌と間違えて癌センターに飛び込んだあわて者。糖尿病担当医に叱責され、自尊心をことごとくなぎ倒され、普通なら憔悴している。入る穴もなく身を隠す場所が無くなったが故にモンスター化し荒れ狂っているところを担当ナースにたしなめられた。

「え～～！！意識がなくなるの～！私、これからど～なるの？」

やっと冷静になり現実を直視できるようになった姫。不安の方がはるかに大きくなりさっきまでの超巨大モンスターが今やその面影はなく蚤のように小さくなり怯えきっている。

「血糖は健康だと100程度なの。血糖コントロールが上手くいかないと500、1000と上昇するの。血糖が上昇すると尿糖が増え、高浸透圧利尿になっちゃうわ。身体は極度の脱水状態で、当然のごとく脳細胞も脱水になり意識が無くなっちゃうの。」

意識がなくなるだけでなく、抵抗力もなくなる。逆に細菌は繁殖力を増し、体中に感染が広がるのよ。肺炎、尿路感染、後腹膜膿瘍…とか。」

担当ナースに現状の厳しさを突き付けられ腰砕けになったところに、さらに担当ナースが畳み掛ける。

「糖尿病の最も厄介なところは急性期の合併症もさることながら慢性期の合併症なの。急性期の合併症はその場を過ぎれば何とかなるけど、慢性期の合併症は一生付きまとうから厄介なの。しかも、その多くが小さい血管から大きい血管まで動脈硬化を起こすの。この動脈硬化はいつかは爆発して血管をつめたり、出血したりしてその先の臓器への酸素や栄養分の供給を遮断することで初めて自覚症状がでるのよ。脳梗塞がいい例よね。血流障害が運動領域であれば麻痺がでてくるし、言葉に関連する処ならしゃべれなくなるし。脳だけでなく、心臓、腎臓、目、神経、腸、膀胱など体の中のすべての臓器に障害が出てくるのが糖尿病のいやらしいところよね。」

「は～」

茫然自失となり姫は座り込むしかなかった。

そよかぜ 循環器内科・糖尿病内科
(県立中央病院 前)

院長 中村陽一